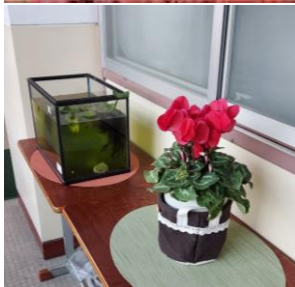




「密」よりは「金」・・・



日本漢字能力検定協会が12月13日に、今年の世相を漢字一字で表現する年末の風物詩「今年の漢字」である「金」を発表されました。「金」は4回目だそうです。オリンピック・パラリンピックが開催された年は、どうしてもその傾向があるようです。そこで、去年を思い起こすと「密」でした。

右の一覧にもあるように、去年は大半がコロナの影響からマイナスイメージの文字が選ばれていましたが、同じようにコロナの影響があったものの、それに打ち勝つためかプラス思考が働いたのかもしれません。

「金」ではなく、新たな文字にも期待したのですが「密」よりはすいぶん気持ちが違います。まだまだコロナは落ち着いたとは

	今年	去年
1位	「金」	「密」
2位	「輪」	「禍」
3位	「楽」	「病」
4位	「変」	「新」
5位	「新」	「変」
6位	「翔」	「家」
7位	「希」	「滅」
8位	「耐」	「菌」
9位	「家」	「鬼」
10位	「病」	「疫」

は言えず、新たにオミクロン株が年明けから急速に拡大するのではない

大文字	小文字	名称	大文字	小文字	名称
A	a	アルファ	N	n	ニュー
B	b	ベータ	Ξ	ξ	クシー(クサイ)
Γ	γ	ガンマ	O	o	オミクロン
Δ	δ	デルタ	Π	π	ピー(パイ)
E	e	イプシロン	P	p	ロー
Z	z	ゼータ	Σ	σ, σ'	シグマ
H	h	エータ(イータ)	T	t	タウ
Θ	θ	テータ(シータ)	Υ	υ	ユプシロン
I	i	イオタ	Φ	φ	フィー(ファイ)
K	κ	カッパ	X	χ	キー(カイ)
Λ	λ	ラムダ	Ψ	ψ	プシー(プサイ)
M	μ	ミュー	Ω	ω	オメガ

かとも言われており、油断はできません。当初、インド株などの表現をしていましたが、地名や人名を使用することで、汚名を着せることや差別につながることを避け、コミュニケーションしやすくするために、WHOは5月31日付で、4種ある新型コロナウイルスの懸念される変異株について、新たにギリシャ文字を使った呼び名をつけたことにより「オミクロン」いう言葉を耳にするようになりました。ギリシャ文字

の一覧を調べてみましたが、これ以上新しい文字を使用することがないことを願います。

「ホタル飛び交う小栗栖池」を目指して・・・

今年の5月からリニューアルした小栗栖池ですが、桜やモミジの落葉も終わり、メダカもカエルもすっかり冬眠状態で寂しい状況です。そこで来年に向けた新たなプロジェクトを考えました。

「ホタルが飛び交う小栗栖池への改造」です。出来上がった当初の底は平坦でした。さらにメダカを飼うには少し広すぎるそうです。そこでまず金魚も共存できる環境を整えるため、池の中の深さを変えるために岩で壁を造り、4段階の違う深さを設定しました。そのうちの1つは菖蒲を直植できるスペース(下の写真左端)を確保しました。また、上の右の写真の右奥に土のスロープを設置し、地上の柔らかい土のスペースと繋げて「ホタルの幼虫」が移動できる環境を整えました。まだまだ計画段階ですから夢物語かもしれませんが、しかし、メダカやカエルを見て喜んでいただ生徒の表情から想像するに、ホタルが飛び交っているのを見たときの喜び姿が待ち遠しいです。できることなら来年の「小栗栖中学校



<当面の予定>

- 1月6日(木)3学期始業式
- 1月18日(火)3年定期考査(20日まで)
- 1月25日(火)1・2年学習確認プログラム(26日まで)

が選ぶ
今年の
漢字」
は『蛭』
となることを期待しています。